

平成30年度自己評価実践報告書

福島県立いわき光洋高等学校

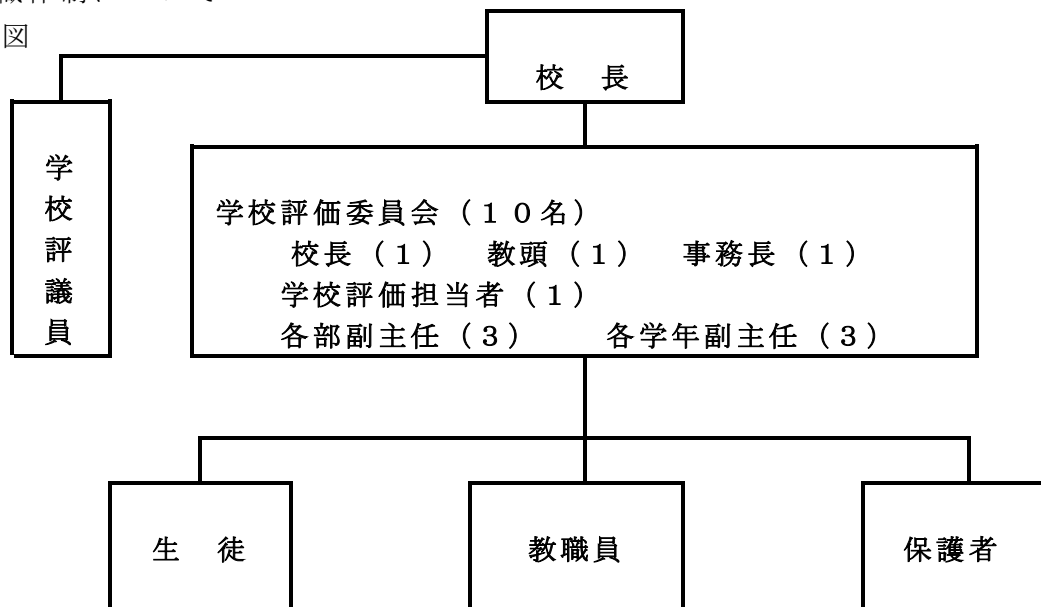
I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』について

- (1) 『学校経営・運営ビジョン』 別紙
- (2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい
 - ① 本校の現状、課題及び教育方針等を踏まえて、各部・各年次・各教科ごとの努力目標及び重点努力事項を作成する。
 - ② 具体的な目標の作成に関しては、教職員や生徒が達成可能なものとし、あわせて評価しやすい内容になるよう工夫する。
- (3) 作成手順
 - ① 各部・各年次・各教科ごとの教育活動年度末反省の作成～前年度3月
 - ② 教育活動年度末反省を踏まえ、各部・各年次・各教科ごとの教育活動計画作成（努力目標及び重点努力事項、年間活動計画等）～4月上旬
 - ③ 教育活動計画をもとに『学校経営・運営ビジョン』を作成～4月下旬

2 校内組織体制について

(1) 組織図



(2) 組織作成のねらい、意図

- ① 校内組織として校長・教頭・事務長・学校評価担当者・総務部副主任・進路指導部副主任・生徒指導部副主任・各年次副主任の10名で構成される学校評価委員会を設置している。また、地域社会に開かれた学校づくりの推進及び保護者や地域住民などの相互の意思疎通や協力関係を高めるために、外部より学校評議員3名が加わり当該組織の充実を図っている。
- ② 学校評価委員会の委員は、前年度の年度末の反省及び課題等を踏まえ、本校における教育活動の評価・改善策等を検討する。

(3) 学校評価委員会の役割

- ① 学校評価計画（案）作成
- ② 学校評価票（案）作成（教職員用、保護者用、生徒用）
- ③ 評価結果の分析、課題等の集約、改善策の検討
- ④ 学校評価結果の公表（PTA総会、学校評議員会、ホームページ等）

3 自己評価年間計画について

(1) 年間計画作成のねらい、意図

- ① 学校の教育活動及びその他の学校運営状況についての評価を行う。
- ② 上記の結果を踏まえ、学校運営の改善を図るための必要な措置を講ずる。
- ③ 年間計画に沿った学校評価を実施する。
- ④ P T A総会、学校評議員会、ホームページ等で学校評価に関する情報を公表し、より一層聞かれた学校づくりを推進する。

(2) 自己評価年間実施状況

- 4月23日（月）
職員会議（校長より学校経営・運営ビジョンの提示及び概要説明）
- 4月23日（月）
学校経営・運営ビジョンをホームページに掲載
- 4月27日（金）
P T A総会（学校経営・運営ビジョンの説明、アンケート調査の協力依頼）
- 6月11日（月）
第1回学校評議員会
- 10月24日（水）
第1回学校評価委員会（アンケート調査内容の検討）
- 11月5日（月）
第2回学校評価委員会（アンケート調査内容最終案の検討）
- 11月29日（木）
第2回学校評議員会（個別面談：太平徹評議員）
- 11月30日（金）
第2回学校評議員会（個別面談：吉村昭一郎評議員）
- 12月3日（月）～12月7日（金）
教職員、生徒、保護者による年度末評価アンケート調査の実施
- 1月25日（金）
第3回学校評価委員会（アンケート結果の分析）
- 2月20日（水）
職員会議（アンケート結果と考察を全教職員に周知）
- 3月1日（金）
第3回学校評議員会（年度末評価）

II 評価結果の概要

1 実施時期、実施方法等

評価者	実 施 時 期		実 施 方 法
	中 間 評 価	年 度 末 評 価	
教職員	実施せず	12月4日 ～12月8日	アンケート調査
生徒			
保護者			
学校評議員	1回目 6月11日 会議 2回目 11月29・30日 個人面談 3回目 3月 1日 会議		

〈実施における反省及び改善点について〉

- ① アンケートの作成は9月より着手した。昨年の反省をもとにして質問内容の精選を行い、回答分析結果がより明確になるように工夫をした。とくに学校経営・運営ビジョンに沿って質問項目を生徒・保護者・教員で一致させて比較しやすいようにした。
- ② アンケート結果から指摘された課題及び反省点を2月の職員会議で報告した。各部の年度末反省で話し合った。
- ③ 学校評価の結果を、学校経営・運営ビジョンの目標達成のためにいかに効果的に反映させるかが課題である。

2 アンケート及び回答数

評価者		対象数	年度末評価アンケート	
			回答数	割合 (%)
教職員		41	41	100
教職員	生徒	596	592	99
以外	保護者	596	499	84

〈実施における分析及び反省について〉

- ① アンケート調査の回答数（回答率）は、教職員が100%、生徒が94%であった。
- ② 保護者の回答率は今年度は84%であった。昨年度は85%であったので、ほぼ同率であった。

3 評価基準について

〈教職員、保護者、生徒〉

評価	A	B	C	D
評価基準	そう思う	多少そう思う	あまりそう思わない	そう思わない

* 評価基準については、いずれかの回答になるように4段階に分けた。

4 年度末評価のまとめ（アンケート結果を踏まえて）

「学校経営・運営ビジョン」で示された光洋の目標

ア 単位制の特色を生かし、確かな学力を育みます。

イ 自主・自学・自律（三自の精神）の積極的態度を身に付けさせるとともに、豊かな心を育みます。

ウ 学校生活全体を通して、明朗でたくましく、心身ともに健全な生徒を育成します。

「目標実現に向けた4本の柱」

「学力の向上」 「進路目標の実現」 「豊かな心の育成」 「開かれた学校」

（1）光洋の目標について

目標アの後段（確かな学力）及びイ、ウについては（2）以下で分析することとする。アの前段部分については単位制の特色を活かし切れておらず、他の普通高校との違いを打ち出すことができずにいると思われる。まず、単位制のメリットを明らかにした上で、それに対する認識を教員が共有することから始めるべきではないか。

（2）学力の向上について

生徒・保護者はほぼすべての項目で前年度よりも良い結果となったが、教員は学習状況への評価が低下している。欲に予習復習がまだまだ習慣化されていない現状がうかがえる。定期考査や受験の直前になって慌てるのではなく、低学年から自主的かつ継続的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせなければならない。そのためにはまず学習に対する生徒の意識を変える必要があり、いかに動機づけるか、その方策を早急に練らなければならない。

また、教員側もこの危機意識を風化させず率先して **chime to chime** を実践したり、生徒が気軽に質問に来ることができるような環境を整備したりするために具体的方策を検討・実施しなければならない。

（3）進路目標の実現について

進路指導部の各種企画は奏功しており概ね高評価が得られているようだが、教員の評価が生徒や保護者の評価よりも高い項目が多く、これを生徒の学習意欲向上に

つなげ、それぞれの項目が進路目標の実現という結果につながっているかどうか細かく検証し、進路指導部と各年次との協力を深めていく必要があるのではないかな。そのためには入学から卒業までの3年間を見据えた進路指導計画を全職員で検討、共有できるとよい。その中で従来から行われている課外授業の方法・形式、個別指導、小論文指導のあり方、外部講師の活用法などについて再確認し、必要であれば教員向けマニュアルなどの作成も視野に入れるべきではないかな。

(4) 豊かな心の育成について

概ね良好だが、教員に評価が生徒・保護者の評価に比べて低く、教員の要求水準が生徒・保護者に理解されていないことがわかる。生活の仕方や心のあり方については手を緩めずに継続的に指導していくことが大切である。確かに服装や挨拶などは以前よりも良くなってきているが、例えばフオーマルの着方などについては、高校生らしい姿とはどのようなものか、あらためて問い直す必要があるのではないかな。身の回りの整理整頓についても学習環境の整備という点でも見逃せない部分であり、指導の手を緩めず継続的に生徒にはたらきかけていくべきだ。

また多様な悩みを抱え集団生活に適応できない生徒が増えてきている中、それらの生徒に対するケアや情報交換については学校をあげて組織的対応も重要になっていると思われる。

(5) 開かれた学校について

地域に向けて開かれて入るものの、PTA総会や授業参観への参加者数が少ないので、日程や内容を再検討する必要がある。さらに今学校で何が行われているかを知ってもらうためにも学校HPを保護者に見てもらう工夫も必要である。本年度開催の公開文化祭はその役割を果たしたといえるが日程等に検討の余地を残した。また同窓会との協力体制がについて教員の評価が低い、学校側からも積極的にはたらきかけ、相互に協力して体制の整備を促すことでよりよい関係を築き上げることが大切だと思われる。

また、緊急連絡以外の携帯メール連絡網の活用についても検討したい。

Ⅲ 広報の概要

(1) 目的や意図

学校の教育方針、教育目標、校訓、学校経営・運営ビジョン等を、PTA総会や学校評議員会、さらにはホームページへの掲載により広く公開するとともに評価結果を公表し、より一層開かれた学校づくりを推進する。

(2) 実施計画及び実施状況

9月中旬に第1回の学校評価委員会を開催し、前年度の反省を踏まえたアンケートの作成に着手した。

(3) 配布対象、配布時期、配布方法等

本年度の『学校経営・運営ビジョン』を4月下旬のPTA総会時に保護者に、6月中旬の第1回学校評議員会において評議員に提示し、説明を行った。

(4) その他

昨年度に続きホームページの活用がめざましく進んだ。さらに内容も充実させて、学校の状況を発信できるように努力したい。

Ⅳ 次年度へ向けて〈課題事項〉

(1) アクティブラーニングを取り入れた学習体制の確立

(2) 新しい大学入試制度への対応と進路実現に向けた組織的な取組み

(3) 生徒の挨拶、服装面での改善

(4) 部活動の活性化

(5) 校内美化の推進

(6) ホームページと携帯通信網を利用したさらに開かれた学校づくり

(7) 読書活動の推進